

令和5年度 財務レポート



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学

理事長あいさつ

本学は、2016年4月に地域の若者に高等教育の機会を広く与えるべく公立大学法人となり、2018年4月には、山口県内初の薬学部薬学科を、2023年4月には工学部に数理情報科学科を、2024年4月には医薬工学科および薬学研究科、工学研究科数理情報科学専攻を設置しました。これらを契機に山陽小野田市の落ち着いた教育環境に根づき、自治体や企業からの連携協力をいただきながら、“教員と学生の近さ”、“学生同士そして地域との緊密な繋がり”などの本学の魅力と、地域からの熱いご支援をいただく素晴らしい環境のもとで、学生みずからが有意義な大学生活を実感でき、「本学に入学して本当に良かった」と言っていただけの、“山陽小野田スマイルシティキャンパス”を目指しています。

少子化による就学人口の減少など激化する大学間競争、スマート社会の到来などの非常に複雑な社会構造の急速な変化を伴うなかで、本学に課せられた社会的使命を踏まえ、より一層のプレゼンスを継続的に高めてまいります。

少子高齢化が加速する時代においても、法人の安定した経営基盤のもと、創設以来の歴史と伝統を受け継ぎ、工学並びに薬学分野の教育研究を通して人材を育て、地域貢献活動を通して地域と共に発展してまいります。そのために、教職員が一丸となって戦略的かつ革新的な大学運営に努め、効率的かつ有効な業務遂行を意識した上で、強固な財政基盤の構築を図り、コンプライアンスを徹底することで、本学のステークホルダーである学生、御父母、市民、県民の期待と信頼に応え、選んでいただける地域社会との連携拠点づくりを進めてまいります。

学生たちが素晴らしい出会いを大切にして、実力を持って自らの将来を拓き、世界に大きく羽ばたけるように全力を尽くしますので、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ここに2023年度の財務レポートをまとめましたのでご報告致します。



公立大学法人山陽小野田市立
山口東京理科大学

理事長 池北 雅彦

目次

理事長あいさつ	1
決算総括	2
貸借対照表	3
損益計算書	4
純資産変動計算書	5
キャッシュ・フロー計算書	6
決算報告書	7
令和5年度の主な取組み	
教育に関する取組み	8
研究に関する取組み	10
地域貢献に関する取組み	12

決算総括

令和 5 年度決算については、法人全体として 796, 069 千円の当期総利益を計上しました。収入については、35 周年記念事業寄附金の寄附額が想定を下回ったものの、補助金収入や受託事業等の外部資金獲得額の増加により、収入合計で当初予算比 295, 255 千円の増加となりました。

支出については 35 周年記念事業の予算執行時期を繰り延べたことや、人件費が想定を下回ったこと等により、支出合計で当初予算比 85, 581 千円の減少となりました。

財務諸表相関図

貸借対照表 (P.3)

資産	固定資産	固定負債	負債
		流動負債	
	流動資産	資本金	純資産
		資本剰余金	
		目的積立金	
	現預金	当期未処分利益 (当期総利益)	

利益処分に関する書類 (P.4)

当期未処分利益(当期総利益)
利益処分量 目的積立金(積立額)

キャッシュ・フロー計算書 (P.6)

業務活動	(支出)	業務活動(収入)
財務活動	(支出)	
投資活動	(支出)	財務活動(収入)
	資金期末残高 (一部)	投資活動(収入)

損益計算書 (P.4)

經常費用	業務費	運営費交付金収益	經常収益
		自己収入等	
	一般管理費		
臨時損失		臨時利益	
当期総利益		目的積立金取崩額	

純資産変動計算書 (P.5)

貸借対照表上の純資産の変動	資本金の当期変動額
	資本剰余金の当期変動額
	利益剰余金の当期変動額
	評価・換算差額等の当期変動額

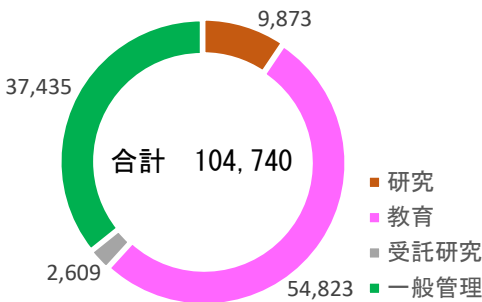
貸借対照表

貸借対照表は、決算日（令和 6 年 3 月 31 日）時点における資産・負債・純資産を表示した、財政状態を明らかにするための報告書です。貸借対照表の負債・純資産はどのようにして資本を調達したかを表し、資産は調達した資本をどのように使用しているのかを表します。

（単位：千円）

資産の部				負債の部			
区分		令和5年度 開始時	令和5年度 期末時	区分		令和5年度 開始時	令和5年度 期末時
資産の部	土地	816,130	1,336,166	負債の部	資産見返負債	756,998	56,820
	建物	2,429,433	9,812,101		長期リース債務	26,578	447,151
	構築物	143,502	137,586		固定負債合計 ④	783,576	503,971
	車両運搬具	927	542		預り施設費	-	214,698
	工具器具備品	237,470	203,204		預り補助金等	-	254,799
	工具器具備品（リース）	29,941	77,145		寄附金債務	45,866	44,466
	図書	320,411	323,560		前受受託研究費等	7,333	793
	建設仮勘定	79,981	724,000		前受共同研究費	4,270	23,074
	有形固定資産合計	4,057,797	12,614,304		前受受託事業費	5,793	-
	ソフトウェア	15,134	21,469		未払金	218,029	220,614
	特許権	1,650	2,406		未払消費税等	1,145	6,371
	特許権仮勘定	2,305	3,673		リース債務	8,859	21,306
	無形固定資産合計	19,089	27,548		前受金	4,405	4,699
	長期前払費用	5,191	3,057		預り科学研究費補助金	14,684	15,662
	長期性預金	-	-		預り金	22,328	34,531
	投資その他の資産合計	5,191	3,057		流動負債合計 ⑤	332,712	841,013
	固定資産合計 ①	4,082,076	12,644,909		負債合計 ⑥(④+⑤)	1,116,288	1,344,984
純資産の部	現金及び預金	1,091,054	1,418,186	純資産の部	資本金（地方公共団体出資金）	3,785,842	12,048,242
	未収学生納付金収入	9,588	8,742		資本剰余金	▲ 492,841	▲ 873,257
	その他未収入金	87,856	85,354		利益剰余金	914,058	1,690,635
	前払費用	47,827	47,953		純資産合計 ⑦	4,207,059	12,865,620
	立替金	4,946	5,460				
	流動資産合計 ②	1,241,271	1,565,695				
資産合計 ③(①+②)		5,323,347	14,210,604	負債・純資産合計 ⑧(⑥+⑦)		5,323,347	14,210,604

工具器具備品目的別内訳



令和 5 年度に取得した工具器具備品の目的別の内訳です。
取得価額を表し、減価償却前の金額を記載しています。

損益計算書

(単位:千円)

区分		令和5年度
経常費用	教育経費	579,142
	研究経費	153,665
	教育研究支援経費	87,766
	受託研究費	56,523
	共同研究費	15,392
	受託事業費	4,500
	人件費	1,582,825
	業務費合計	2,479,813
	一般管理費	478,091
	雑損	13
経常費用合計①		2,957,917
経常収益	運営費交付金収益	1,743,628
	授業料収益等	1,056,610
	受託研究等収益	58,562
	共同研究収益	16,198
	受託事業収益	4,500
	寄附金収益	34,114
	補助金等収益	98,930
	財務収益	128
	雑益	59,338
経常収益合計②		3,072,008
経常利益③(②-①)		114,091

損益計算書は、ある一定期間（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）の業務活動の成果を表した報告書です。経営の理念に基づいてサービスを社会に提供し、満足していただいた活動の結果を利益（又は損失）として計算したものです。

人件費内訳

役員人件費： 53,896千円
教員人件費： 1,143,550千円
職員人件費： 385,379千円

授業料収益等内訳

授業料収益： 892,137千円
入学金収益： 128,310千円
検定料収益： 34,985千円
手数料収益： 1,178千円

臨時利益④	675,444
臨時損失⑤	4,159
当期純利益⑥(③+④-⑤)	785,376
目的積立金取崩額⑦	10,693
当期総利益⑧(⑥+⑦)	796,069

利益処分にに関する書類（要約）

(単位:千円)

当期未処分利益	
当期総利益	796,069

(単位:千円)

利益処分額	
教育研究の質の向上及び施設整備積立金	82,400

地域への経済波及効果

山口東京理科大学が立地することによる
地域への経済波及効果（令和5年度）

	山口県	山陽小野田市
直接効果	32.3 億円	19.3 億円
生産誘発額	26.7 億円	15.9 億円
付加価値誘発額	16.6 億円	9.9 億円
総合効果	75.5 億円	45.1 億円

地方独立行政法人法第40条第3項により、設立団体（山陽小野田市）の長の承認を受ける必要がある金額です。経営努力によって得られた利益として、次年度以降に利用可能な積立金となります。

純資産変動計算書

純資産変動計算書は、法人の財政状態と運営状況との関係を表すため、一会計期間に属する法人の全ての純資産の変動を記載するものとなっております。

(単位: 千円)

	純資産合計
当期首残高	4,207,059
当期変動額	
I 資本金の当期変動額	
出資金の受入	8,262,400
II 資本剰余金の当期変動額	
固定資産の取得	8,800
減価償却	▲ 358,999
固定資産の減損	▲ 30,216
III 利益剰余金(又は繰越欠損金)の当期変動額	
(1) 利益の処分又は損失の処理	
利益の処分による積立	0
(2) その他	
当期純利益(又は当期純損失)	796,069
目的積立金取崩額	▲ 19,493
当期変動額合計	8,658,561
当期末残高	12,865,620

期首における貸借対照表の純資産合計額

当期の純資産額の増加

期末における貸借対照表の純資産合計額

キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間の収入（キャッシュ・イン）と支出（キャッシュ・アウト）を捉え、キャッシュの流れを計算して表示する報告書です。

(単位: 千円)

区分		令和5年度
支出	原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲ 785,594
	人件費支出	▲ 1,554,155
	その他の業務支出	▲ 421,864
	補助金等の精算による返還金の支出	▲ 4,200
収入	運営費交付金収入	1,743,628
	授業料等収入	951,858
	受託研究等収入	89,783
	補助金等収入	796,761
	寄附金収入	17,639
	科学研究費助成事業等預り金収支差額	978
	預り金の純増減額	12,203
	その他の収入	60,810
業務活動によるキャッシュ・フロー合計 ①		907,847
支出	有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	▲ 694,254
収入	施設費による収入	134,717
	定期預金の払戻しによる収入	120,000
	利息及び配当金の受取額	128
投資活動によるキャッシュ・フロー合計 ②		▲ 439,409
支出	ファイナンス・リース債務の返済による支出	▲ 21,306
財務活動によるキャッシュ・フロー合計 ③		▲ 21,306
資金増加額 ④(①+②+③)		447,132
資金期首残高 ⑤		971,054
資金期末残高 ⑥(④+⑤)		1,418,186

資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	1,418,185,660 円
資金期末残高	1,418,185,660 円
重要な非資金取引	
工具器具備品	15,120,582 円
図書	142,981 円
合計	15,263,563 円

資金運用について

当法人は、資金運用については地方独立行政法人法第43条の規定に基づき、預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定しております。資金運用に当たっては、現状では預金により運用しております。

決算報告書

第8期(令和5年度)

(単位:千円)

区分	予算額	決算額	差額 (決算-予算)
収入			
運営費交付金収入	1,743,628	1,743,628	-
補助金収入	115,917	819,916	703,999
学生等納付金収入	993,247	982,210	▲ 11,037
財務収入	63	128	65
雑収入	9,330	11,105	1,775
受託研究収入	23,537	52,022	28,485
共同研究収入	22,963	35,002	12,039
受託事業収入	0	▲ 793	▲ 793
寄附金収入	71,500	17,448	▲ 54,052
目的積立金取崩額	472,076	82,109	▲ 389,967
施設等設備費補助金収入	129,976	134,717	4,741
収入合計①	3,582,237	3,877,492	295,255
支出			
教育経費	498,557	470,367	▲ 28,190
研究経費	94,900	88,273	▲ 6,627
教育研究支援経費	104,625	99,574	▲ 5,051
受託研究費	23,537	58,372	34,835
共同研究費	22,963	15,999	▲ 6,964
受託事業費	0	5,001	5,001
寄附金	71,500	18,850	▲ 52,650
人件費	1,644,765	1,582,760	▲ 62,005
一般管理費	1,120,390	1,157,460	37,070
予備費	1,000	0	▲ 1,000
支出合計②	3,582,237	3,496,656	▲ 85,581
収入-支出 (①-②)	-	380,836	380,836

業者等の光熱水使用料が増加したこと等により増加

外部資金獲得額の増加

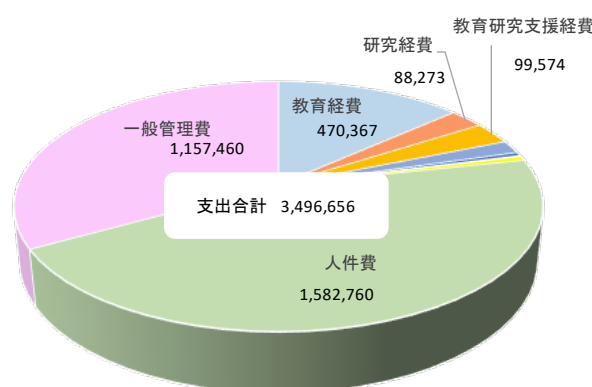
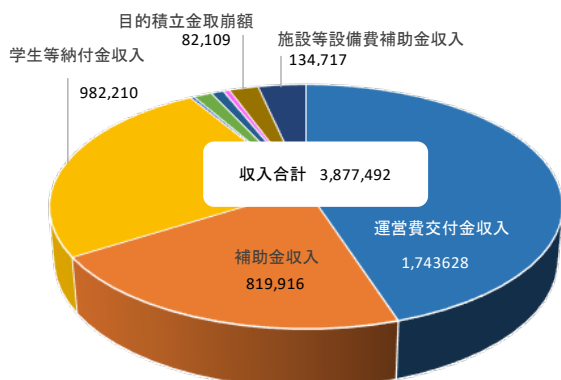
35周年記念事業寄付金収入が目標を下回ったこと等により減少

テニスコート・駐車場整備事業の経費が増加したこと等により増加

外部資金獲得額の増加に伴い、研究費の支出も増加

35周年記念事業寄付金収入が目標を下回ったこと等により減少

教室棟整備事業の経費が増加したこと等に伴い増加



本学の収入には、①市等からの収入（運営費交付金など）、②自己収入（学生等納付金、補助金、受託研究費、寄附金など）、③その他の収入（財務収入など）があります。

中でも、自己収入は大学の経営努力によって大きく変動します。本学では、外部資金獲得に向けた取り組みなどを通して、さらなる自己収入の増加を目指しています。

令和 5 年度の主な取り組み

教育に関する取り組み

外国人留学生との交流会を開催しました

9月14日（木）、外国人留学生との交流会を開催しました。

この会は、本学に在籍する外国人留学生、日本人学生及び教員の交流を図るとともに、互いの文化を尊重し理解を深めることを目的として、国際交流センターが主催しました。

外国人留学生が作ってくれたそれぞれの国の料理や、みんなで持ち寄ったお菓子を食べ、母国の文化や日本で
の学生生活について語り合い、楽しい
交流会になりました。



第 109 回薬剤師国家試験の結果について

3月19日（火）に第109回薬剤師国家試験合格発表がありました。

本学では1期生101人が受験し、95人が合格しました。

（新卒合格率 94.06%）。

彼らは今後、病院や薬局等の医療機関や製薬企業、大学院など多くの場所で活躍されることが期待されます。

今後の活躍を祈念いたします。

キャンパスクリーンキャンペーンを実施

6月15日（木）と16日（金）の2日間、キャンパスクリーンキャンペーンを実施しました。

キャンパスクリーンキャンペーンとは、環境教育の一環として、大学構内及び周辺の清掃及び除草を行う毎年恒例の行事です。

2日間で約300名以上の学生及び教職員が参加し、JR 雀田駅から大学までの通学路及び大学の周辺を中心に、ゴミ、タバコの吸い殻、空き缶、不法投棄されたもの等を回収し、回収後はゴミの分別及び除草を行いました。

今回のキャンパスクリーンキャンペーンを通じ、学生は喫煙マナーや環境配慮活動への意識を高めることができました。



市 DX 協創プラットフォーム最終発表会に本学学生と教員が参加しました

令和5年7月から7回にわたり、デジタルを活用した地域課題の解決に向け、本学、商工会議所、市職員等が討議を重ねてきた「DX 協創プラットフォーム」の最終発表会が、11月24日（金）に市役所で開催され、本学電気工学科及び数理情報科学科の学生計7名、工学部数理情報科学科 福井 一彦 教授及び共通教育センター 中村 洋 准教授が参加しました。

発表会では、数理情報科学科1年の湊 彪我さんと長谷川 稜太さんが「デジタルシェアハウス構想」を、電気工学科3年の鈴木 大翔さんが「アプリを活用した市民活動の支援」を発表し、市長をはじめ会場と意見交換を行いました。

藤田市長は「今回の発表を基に予算化を検討し、デジタルを活用した課題解決でスマイルシティを実現させたい」と総評されました。



「NHK 大学セミナー」を開催しました

7月19日（水）、一般科目「学術と地域文化1」において、NHK 山口放送局との共催でNHK 大学セミナーを開催しました。セミナーでは、科学番組制作で活躍中のNHKディレクター片山宏昭氏と荻野紗良氏を講師に迎え、「リケイの仕事が世界を変える」をテーマに、科学番組が出来上がるまでのプロセスやプレゼン力を向上させるコツなど、様々な講話をしていただきました。

科学番組制作者の視点から、理系の仕事のやりがいや熱く語られ、学生たちはメモを取りながら熱心に耳を傾けていました。最後に、荻野ディレクターから「大学時代は将来に不安が募る時期でもあるが、理系大学での学びはいろいろな場面で役立つので、自信を持ってほしい。勉強以外にも熱中できることを見つけ、自らの可能性を広げて活躍してください。」とのエールをいただき、盛況のうちに終了しました。



医・薬学生共同多職種連携交流会を開催しました

6月25日（日）、山口大学医学部と山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部は、令和6年度予定の「国内初の国立大学医学部と公立大学薬学部の共同による多職種連携教育」実施に向けて、両学部の学生交流会を開催しました。チーム医療の土台において、多学部共同による多職種連携教育は強く求められています。

多職種連携教育では、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師など多職種の役割や専門性、また自身の職種の専門性や責任を理解し、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師の医療従事者が対等な立場で意見と情報の交換を行い、患者中心の医療を行うチーム医療の在り方を学ぶことを目的としています。

今回の交流会には、山口大学医学部医学科3年生8名、保健学科看護学専攻2年生15名、保健学科検査技術科学専攻3年生8名、本学薬学部薬学科4年生28名の計59名の学生及び山口大学と本学の教職員・学生スタッフを含め総勢約90名で実施されました。

学生は8班のグループに分かれ、各テーマについてディスカッションと発表を行いました。発表後は、学生及び教職員で昼食をとりながら、さらに交流を深めました。相互の教職員が、これからの山口大学医学部と本学薬学部との連携教育について一歩前進した手応えを感じ、次年度（令和6年度）に向けた多職種連携教育の具体的な準備がイメージでき、大変有意義な交流会となりました。



特別講演会「薬局・病院に外国人がやってきた!! さて、どうする?!!」を開催しました

2月3日（土）、本学において2名の講師をお招きし、外国人患者等への対応能力向上を学ぶ機会として「薬局・病院に外国人がやってきた!! さて、どうする?!!」をテーマに特別講演会を開催しました。当日は、薬剤師、行政関係者、日本語学校関係者、大学教職員、大学生など市内外から約30名が聴講されました。

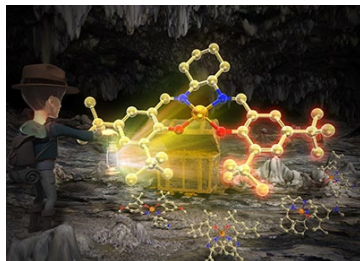
私たちが、何気ない日常生活の場面で「やさしい日本語」を利用し、相手の背景を見て、相手の心情を配慮したコミュニケーションを心がけることで、多様性を包括したやさしい世界の実現に繋がるのだと学ぶことができ、改めて相手の背景を見たコミュニケーションの大切さに気付かされる大変貴重な機会となりました。



生体内金属酵素反応のカギとなる銅-フェノレート錯体の多様な酸化状態について紹介

本学工学部 竹山 知志 助教と茨城大学理学部 島崎 優一 准教授は、銅-フェノレート錯体が織りなす特異的な酸化状態と、それらに誘起される物性及び反応性との相関について、国内外の研究者の四半世紀にわたる研究成果を集約した総説記事を発表しました。

本総説では、銅-フェノレート錯体の物性や反応性の正確な理解には、「分子構造から予想する形式的な酸化状態（形式酸化数）」を活用した議論では不十分であり、錯体の電子状態をより正確に表現した「実験により決定された酸化状態（実験的酸化数）」に基づき議論することの重要性について解説しています。本総説の内容は、生体内機構の更なる理解や金属酵素に着想を得た分子触媒の開発を目指す上で「新たな見通し（Perspective）」を提供します。



◀世界中の研究者を魅了してきた銅-フェノレート錯体を宝物にみたてた Back Cover.

令和5年度研究成果発表会を開催しました

3月13日（水）、活気のある研究風土の醸成を図ることを目的に「令和5年度研究成果発表会」を開催しました。

地域課題解決研究や若手研究者による研究など、様々な分野の教員、学生により計35テーマの発表が行われました。教職員や学生、山陽小野田市職員など計100名以上の参加があり、活発な意見交換をすることができました。

開会及び閉会時には、望月学長、武田薬学部長から、多様な研究者との議論から生まれる学際的研究の推進など、本学の研究力強化に向けた激励のお言葉を頂きました。

この度の発表会が、今後の研究活動に資するものとなれば幸いです。



第21回全日本学生フォーミュラ大会に参戦しました

8月28日（月）～9月2日（土）、学生が自ら構想・設計・製作した小型レーシングカーによりものづくりの総合力を競う「第21回全日本学生フォーミュラ大会」が静岡県小笠山総合運動公園で行われました。

本学の学生フォーミュラチーム（SOCU Formula）はICVクラス（ガソリン車部門）に出場しました。第10回大会から出場し、今大会で10回目の出場になります。技術検査や騒音などの「車検」、コストやデザインの審査、プレゼンテーションを行う「静的審査」、実際にコースを走り、走行性能や耐久性、燃料消費量などから評価する「動的審査」などの審査を受けました。審査の結果、69校中総合17位という好成績を残すことができました。



記憶促進と統合失調症様行動抑制を発見

本学薬学部の 木村 英雄 教授、澁谷 典広 准教授、木村 由佳 客員研究員、国立精神・神経医療研究センター（NCNP）精神保健研究所精神薬理研究部、武蔵野大学薬学部、大阪大学医学部、東京大学医科学研究所、理化学研究所らの共同研究グループは、脳内硫化水素とポリサルファイドが神経伝達物質放出を制御することで記憶形成に関与し、その不足によって統合失調症様行動を誘発することを発見しました。

本研究成果により、硫化水素/ポリサルファイド、その生合成酵素と標的分子が、統合失調症の新たな創薬開発に繋がると期待されます。



木村 英雄 教授 ▶

◀ 澁谷 典広 准教授



第4回和漢医薬学会若手研究者フォーラム 「優秀発表賞」を受賞

本学学生が第4回和漢医薬学会若手研究者フォーラムにおいて「優秀発表賞」を受賞しました。

■受賞者：薬学部 薬学科 生薬・漢方分野

6年 村岡 卓和 さん

■受賞演題：エビスグサ（*Cassia obtusifolia*）スプラウト含有成分の分析および機能的評価

本学教員がJIEPの「アカデミックプラザ賞」を受賞

本学工学部機械工学科の 結城 光平 助教が、5月31日から6月2日にわたり東京ビッグサイトで開催されたエレクトロニクス実装学会（JIEP）主催の「2023 マイクロエレクトロニクスショー『アカデミックプラザ』」において、「アカデミックプラザ賞」を受賞しました。

この賞は、アカデミックプラザで発表される研究発表論文の中から、JIEP 展示会委員会が優秀な論文内容を選考し授与するものです。

■受賞演目：ロータス金属が引き起こすブリージング現象を利用した空冷及び沸騰浸漬冷却技術

文部科学省の「地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業」に本学のプログラムが選定されました

文部科学省「地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業」に、本学の『山口県が抱える薬剤師の地域偏在と在宅医療の問題を解決する先進的な薬剤師養成プログラム』が採択されました。

この文部科学省の事業は、地域の医療ニーズ（へき地医療、在宅医療等）の課題に対応するため、地域医療に関する教育プログラムの構築・実施を行うことを目的としています。

本学の『山口県が抱える薬剤師の地域偏在と在宅医療の問題を解決する先進的な薬剤師養成プログラム』では、山口県の地域課題、医療問題、医療人材ニーズを理解し解決すべく、病院薬局実務実習を終えた薬学生を対象としたアドバンスコースとして「へき地の在宅医療実務実習」を導入します。また、それと並行して 5G と XR（クロスリアリティ）の VR（仮想現実）や AR（拡張現実）を活用したへき地医療疑似体験教材を通して、へき地医療の問題点を理解し、それらの解決にむけたマインドと実践力を有する薬剤師を育成し地域に輩出することを目的としています。

山陽小野田市みんなでスマイルスポーツ体験に参加しました

2月17日(土)に山陽小野田市立竜王中学校で開催された「山陽小野田市みんなでスマイルスポーツ体験」に、本学教員・学生が参加しました。

このイベントは、地域の文化やスポーツの可能性を探ることを目的に、市文化スポーツ推進課と県スポーツ協会を中心に企画され、本学からは共通教育センターの 宇野 直士 講師が参画し、運営スタッフとして前田成美さん、中野玲奈さん、岡村羽琉さんが参加しました。当日は、ミニサッカー、ソフトテニス、モルック、ポッチャ、ピラティス、カポエイラ、サンバ、コンテンポラリーダンス、キッズダンス、体幹トレーニング教室など、多様なプログラムが用意され、専門の指導者による指導のもと、子どもから大人まで幅広い年齢層の参加がありました。また、本学学生が考案した「枠の中に入れよう！フリスビー対決」などのオリジナルスポーツも参加者から好評を得ました。

本学は今後も、地域住民が身近に文化・芸術、スポーツを楽しめる環境を整え、子どもから大人までが参加しやすい包括的なコミュニティの形成に寄与してまいります。



おのだ産業キッズバスツアー参加の小学生・保護者が来学しました

3月9日(土)、山陽小野田市内の小学4～6年生とその保護者を対象とした小野田商工会議所主催の「おのだ産業キッズバスツアー2023(エネルギー編)」に参加した親子15組30人が本学を訪れました。

このイベントは、市内3か所(長州産業株式会社、本学、中国電力株式会社新小野田発電所)を巡って、日常生活の中で使っている「電気エネルギーの作り方」や「どんな仕事をしているのか」を学び、エネルギー産業に興味を持ってもらうことを目的に開催されました。

本学では、工学部電気工学科の 阿武 宏明 教授が「電気をつくる」と題した講義(実験)を実施し、同研究室の学生2人が補助に当たりました。手回し発電機など参加者が夢中になれる機器も多くありました。

このたびの本学への訪問で、電気エネルギーの仕組みを学んだり体験したりしたことが、科学分野への興味関心につながり、市内に理系kid'sが増えるきっかけになれば幸いです。



魅力ある大学づくりに向けて



令和5年度学生表彰式にて

① 志願者情報

令和4年度の入学選抜試験において、入学定員工学部300人に対して1,067人、薬学部120人に対して942人の志願者がありました。

② 学生表彰

研究および学業、課外活動、社会活動等において優れた評価を受け、本学の栄誉を高めた個人または団体を表彰するもので、今年度は個人16名、団体8つが表彰されました。

② 就職率

令和5年度の学部卒業者98%、修士課程修了者100%という高い就職率を達成することが出来ました。

第6回チルドレンデイキャンプが開催されました

3月29日（金）に本学が参画しているダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業の一環として、「第6回チルドレンデイキャンプ」が本学で開催されました。この学童保育プログラムは、子育て中の教職員が、長期休暇中に安心して就業するための支援事業の一環です。

今回は参加者が10名、本学の学生2名が協力員として参加しました。参加した子ども達は、アクティビティの中で楽器の演奏に挑戦し、ゲストとしてお招きしたミュージシャンの方とともにセッションを行いました。子ども達の交流も深まり、笑顔と音楽に溢れた賑やかな1日となりました。

また、協力員として参加した学生は楽しみながら子ども達から多くのことを学び、子ども達とふれあう経験を通して子育てをイメージすることでダイバーシティへの理解、関心を深めました。本学では、これからも全学的にダイバーシティの推進に取り組んでまいります。



「ほんものの科学体験講座」を実施

12月8日（金）、山陽小野田市立厚陽中学校の3年生9名を対象に本学において「ほんものの科学体験講座」を実施しました。本学薬学部薬学科の牛島 健太郎教授、堀口道子講師、鶴留 優也助教及び学生2名が講師を務め、厚陽中の生徒は「薬を作ってみよう!」を受講し、薬作りを体験しました。

「ほんものの科学体験講座」とは、山陽小野田市教育委員会との連携の下、山陽小野田市内の小・中学生を対象に実施する出前実験講座です。生徒は、身近な薬について、錠剤、カプセル剤、坐剤、軟膏など多くの種類があり、体内での溶け方、吸収・効き目に違いがあること、用途によって薬の形を変えていることなどの説明を受けました。その後、各自が薬の工夫について、ビタミンCのカプセル剤やぬり薬を実際に作って学びました。

本日の体験を通じて、科学に興味を持ってくれる生徒が一人でも増えてくれると幸いです。



山口大学医学部と連携協定を締結

12月25日（月）、山口大学医学部及び本学薬学部は、チーム医療を実践できる優れた医療人を養成し地域の健康・医療・福祉の発展に寄与することを目的として、多職種連携教育プログラムの連携協定を締結しました。開式にあたり、山口大学の篠田晃医学部長から「この多職種連携教育プログラムをきっかけに、学部教育だけでなく、臨床・学術分野における交流も深め、学生が魅力を感じるような医療環境づくり、そして宇部・小野田地区の学研都市への発展に寄与したい。」と御挨拶をいただきました。次に、本学の武田健薬学部長が「このたび山口大学医学部と連携協定を締結できることは本学としても大変有難く、これを機に、患者中心の医療を行うチーム医療の在り方を学ぶことで、多職種連携教育を推し進め、地域の医療に貢献していきたい。」と述べました。その後、協定書への署名を行い、本学薬学部の頼岡克弘教授から本協定の概要についての説明がありました。



この協定により、令和6年度から多職種連携授業科目「医療環境論」が開講され、山口大学医学部（医学科3年生、保健学科看護学専攻2年生、保健学科検査技術学専攻3年生）と本学薬学部（薬学科4年生）との合同での授業が実施されます。地域医療の発展に寄与する薬学の人材育成について連携し、チーム医療を実践できる優れた医療人の養成を一層推進してまいります。